

ISSN 0425-4929

ÉTUDES  
DE  
LANGUE ET LITTÉRATURE  
FRANÇAISES

フランス語フランス文学研究

N° 77

日本フランス語フランス文学会

Société Japonaise  
de  
Langue et Littérature Françaises

---

Librairie HAKUSUISHA  
Tokyo, Japon

2000

## 時空間的表現から因果的表現 方法への移行に関する考察

三 石 博 行\*  
Eddy VAN DROM\*\*

### 時空的表現形態の変化と因果表現

因果的表現には原因と結果の表現がある。原因とは結果的に作り出された状態に関する理由で、結果とはある理由によって導かれた状態の説明であるため、この二つの表現は相補的な関係にある。我々は二つの表現に関して、約 200 の用語を調べた。中でも、因果表現では、以下の例で示すように、空間が果たす役割は問題となる。

à cause de, en raison de, du fait de, à force de, faute de, sous l'effet de, sur la base de, en vertu de, sous couvert de, à l'occasion de, résulter de, découler de, venir de, sans oublier des noms tels que l'origine.

つまり、de の場所的な意味が原因表現に移行していると考えられる。

### 因果的表現形態の歴史的進化過程

因果表現は 9 世紀の古フランス語には、従属接続詞 que と並列 parataxe しかなかった [Hybertie, 1996]。しかし、現在では 200 以上の表現が存在している。語源辞典を参照に 122 の表現に関する語源について調査した [Rey, 1993]。すると 13 世紀と 17 世紀に、発生のピークがあることが確認された。

17 世紀に現われた増加の頂点は、科学的表現での因果的な説明が必要となる

近代合理主義の発生と関係があると考えられ、科学思想の発生の言語文化的現象であると解釈できる。

また、13 世紀に起こった因果表現の増加は、中世の最後に起こる農業過剰生産物の流通と交換による市場経済の発生と関係すると思われる [Le Goff, 1999]。この時代は、絶対的な価値を持つ宗教的世界から次第に経済的な価値を主張する市民階級への聖俗革命の時代の入り口で、例えば時間を伝える唯一の手段である教会の鐘は、当時形成された都市国家の市役所の時計台へと、時間の管理が教会から市民社会の制度に移行し、中世の宗教的な時間概念に代わって市民階級の生活感覚的な時間概念が発生した。その後「時は金なり」という表現に代表されるように、時間は市場経済の概念と直接関係することになる。同じように、空間の概念も変化した。例えば、聖書伝達の手段である教会壁画、そこには遠近法は無かったのだが、市民階級や商品経済の発生に深く関係する絵画に発展することで、遠近法と呼ばれる空間表現が生み出された。経済的流通などの因果的表現の必要性や生活世界化した時空概念の発生は、視覚的因果関係や時間的因果関係から抽象的因果関係の用法に移行したと考えられる。

### 参考文献

- Hybertie, C. *La conséquence en français*, OPHRYS (l'essentiel), 1996.  
Rey, A. *Dictionnaire historique de la langue française*, Le Robert, 1993.  
Le Goff, J. *Un autre Moyen Âge*, Quarto Gallimard, 1999.

\*(金蘭短期大学助教授)

\*\*(阪南大学非常勤講師)